

たけふ

TAKUSUI
No. 687

1

January, 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



初詣 (姫路市・廣峯神社)

年頭挨拶

JF兵庫漁連 通常総会 開催

《今月の海上安全標語》～今年の願い～

毎年、漁業者の海難事故が後を絶ちません…。

JF・系統団体は今年も一丸となって、海上安全運動に努めてまいります。

今年こそ “^{ゼロ}海難事故0” ^{みなも}兵庫の海面 では、今年も安全操業で!



安全元気ふるさと

兵庫の実現

兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

わが国経済は、円高是正を背景に輸出産業を中心に明るさが出てきました。この動きを地方や中小企業へと広げ、持続可能な発展につなげていかなばなりません。

人口減少や少子化、高齢化への対応、地域経済の再生、地震・風水害への備えなど、取り組むべき課題は明らかです。今こそ、これまでに培ってきた力を結集し、兵庫から成熟社会にふさわしい新たなモデル構築をめざし、挑戦していくときです。

一つには、安全安心の確保です。震災二十周年に向けて、改めて兵庫の経験と教訓を発信するとともに、地震・津波・風水害対策に万全を期します。また、社会インフラの長寿命化や高齢者の地域見守りの充実など、暮らしの基盤を確かにします。

二つには、人、地域、産業の元気づくりです。若者の就業支援をはじめ、女性、高齢者、障害者の社会参画を促進するとともに、大河ドラマ「軍師官兵衛」のスタートを契機と

して内外の交流を拡大します。産業イノベーションの創出や農林水産物のブランド化に取り組み、産業力を強化します。

三つには、ふるさと兵庫づくりです。ふるさとへの誇りと愛着を育み、地域と歩む人々とともに、多様性を活かした兵庫らしい地域づくりを進めます。そのためにも、地方分権改革と行財政改革の着実な推進が欠かせません。

二〇二〇年に東京オリンピック・パラリンピックが、その翌年には関西マスターズゲームズ二〇二二が開催されます。豊かな自然・歴史・文化が息づき、多様な産業が躍動し、そして人々がいきいきと活動する「安全元気ふるさと兵庫」を実現し、世界へ発信していこうではありませんか。

ふるさとの未来の課題を

乗り越えて

安全元気の 地域をつくる

CONTENTS

No.687 January, 2014

- 2 新年のご挨拶
- 7 洲本炬口漁業協同組合 発足
第38回 通常総会開催される
- 8 TPP決議の実現を求める国民集会 開催
- 9 第1回 乾のり入札会を開催
- 10 虹の仲間であそび
- 11 農林水産省近畿農政局神戸地域センターによるモニター交流会で意見交換
- 12 平成25年度「ひょうご海の子作品展」作文部門 受賞者決定
- 13 大角会長が学生と意見交換
海難事故をなくそう!
- 14 兵庫JCC通信
- 15 旬に想う
大輪田塾だより
- 16 平成25年度「ひょうご海の子作品展」絵画部門 受賞者決定



表紙の言葉

「初詣」(姫路市・廣峯神社)

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

写真は、今年のNHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」の舞台でもある姫路市の廣峯神社です。

吉備真備が創建し、牛頭天王の総本宮といわれる同社には、祈願に訪れた多くの人の姿がありました。

厳しい環境が続く水産業界ですが、今年こそ馬のように「跳ねる」一年であってほしいものです。

この一年の豊漁と安全操業を祈念いたします。

新年のご挨拶



年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 隆義

再生」については、強い使命感を持って取り組んでおります。

その中で、「燃油高騰対策」については、全国漁業代表者緊急要請集会等の取り組みにより、省燃油活動推進事業、漁業経営セーフティネット構築事業の他、農林漁業用A重油の特例措置の延長など、燃油高騰対策をはじめとする補正予算が生まれ、十分ではありませんが漁業経営維持の仕組みを進めることが出来ました。今後も漁業者が燃油に左右されない漁業経営を構築する対策として要望を継続していきます。

また、「豊かな漁場再生」については、昨年11月に東京で瀬戸内海議員連盟が開催され、兵庫県知事、香川県知事による瀬戸内海の現況報告に加え、瀬戸内海の10府県による漁協・漁連から瀬戸内海を豊かな漁場として再生するための具体的要望を提出しました。加えて、漁業者の視点として、瀬戸内海における生物多様性、生産性の観点で疲弊している中で、瀬戸内海の再生を図るためには、現行の「瀬戸内海環境保全特別措置法」では対応が困難であると考えており、瀬戸内海3万人の漁業者が願う豊かな漁場として、再生できる法制化の早期実現に努めていきます。

新年明けましておめでとうございます。平成26年の年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

昨年、新政権誕生による経済再生最優先政策により、景気は回復しつつあると言われてきましたが、水産業界においては、円安・株高の進行、世界的需要の増大に伴い燃油価格が高騰し、漁家経営を直撃した極めて厳しい状況となりました。

第38期の本会事業実績は、のり養殖業が栄養塩低下による色落ち被害が拡大し漁期が早期に終了したこと、石油及びのり共販事業は当初の計画を大幅に下回りました。

このような中、のり共販事業と石油事業への依存体質から少しでも転換を図るため、昨年12月の通常総会において、株式会社東海屋の株式取得の承認をいただきました。今後は、加工や鮮魚販売事業等の強化により多角的に事業を展開し、本県水産物の販路拡大を図って参る所存でございます。

さて、本年は第2次中期経営計画(平成23年10月～平成26年9月)の締めくくりにあつた年であり、重要な取り組み事項の中でも、現在の漁業情勢にあつて、特に、「燃油高騰対策」、「豊かな漁場

このほか、本年は、協同組合における相互扶助に基づく会員との信頼関係構築による系統利用率の向上、SEA T-CLUB、流通加工部を中心として、イオン、コープこうべの各店舗での県産の本格的な鮮魚供給体制の構築

を目指した地産地消への取り組み、のり共販のあり方や価格下落に歯止めをかけるための、乾のり共販改革への取り組み等、魚価向上対策が急がれます。更に、大きく動き始めたTPP協定についても厳しい交渉が続いています。のりのIQ枠をはじめ、関税を撤廃していかない水産物を聖域と位置付け、もし守られない場合は交渉撤退も許さない姿勢で臨むよう、中央団体と共に国へ働きかけているところです。

一方、一昨年から、転落による海難事故を防止するため、「浮力合羽」を開発し、その普及に努めております。昨年は浮力合羽の着用により、海中転落の際に命が救われた報告も受けましたが、海難事故は依然後を絶たず、尊い命が奪われております。今後も、全系統を挙げて海難事故防止により一層力を注いで参りますので、皆様におかれましても安全対策に万全をつくしていただくよう、お願いいたします。

本県においても、組合員の減少、漁家経営の厳しさから、漁業存続の危機に陥ろうとしている中、今後の力強い水産業の再構築のため、飛躍の年となるよう、本会役員一同が結束し、「日々改革」の気持ちを持って諸課題に取り組んでいく所存でございますので、会員・所属員、関係団体及び県当局を始めとする行政のより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、本年が漁業にとつて明るく希望の持てる年となりますとともに、皆様のご繁栄とご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長

山田 峰人

新年あけましておめでとうございませう。年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様にご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃より本会業務の運営に格別のご高配をいただいておりますことにあつたため厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、我が国経済は、安倍政権における経済政策に加え、日銀による金融緩和政策により、景気回復の期待感から株価が上昇するなど日本経済に少しの明るさが垣間見えた一年となりました。

しかしながら、一方では円安に伴う原油の高騰が厳しい漁業経営に重く押し掛かる状況が今なお続いている状況であります。昨年5月には、「我が国漁業の存続を求める全国漁業代表者集会」に先駆け「兵庫県漁業者決起大会」を開催し、漁業の存続を図るための緊急政策の実現を政府及び国会に強く求めていくため県内漁業者が一致団結するところとなりました。

本会はこの厳しい漁業環境の中において、漁業生産及び水産加工品の生産活動を金融面でサポートすることに努めるとともに、今後の経営収支の安定化と財務基盤の強化を目指し、昨年7月にコスト削減と事務効率化を目的とした機構改革を行いました。また、12月には漁業金融の基盤強化策として平成21年度より検討を重ねてきた広域信漁連の構築に向けた実践的な協議の第一歩を踏み出したと

ころであります。

貯金業務においては、水揚代金の口座振替と貯蓄推進キャンペーンの実施により資金量の安定確保に努めており、融資業務では、平成25年3月末で期限となった金融円滑化法の主旨に則り、引き続き金融円滑化への取組みは継続するとともに、積極的な設備投資には国の利子補給事業並びに農林中央金庫による利子助成



新年のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事

川越 一男

県下漁業関係の皆様、新年明けましておめでとございます。皆様にはご家族お揃いで良いお正月をお迎えのことと存じます。

さて、ご多分に漏れず旧年中も色々なことがございました。新年早々には、アルジェリアの人質事件で邦人10名が射殺されるという非常に痛ましい事件がありました。北朝鮮によるミサイル発射や、その後のたび重なる挑発発言や不可解な行動等は全くの論外であります。一方で中国の大気汚染問題についても、その影響を大きく受ける我が国にありまして大変深刻な問題になりました。他方、北方領土を含めた尖閣・竹島の領土問題についても一向に埒がきませんが、特に尖閣周辺については今もなお日中間の緊張状態が続いているところでありまして。国内においては、一昨年末の総選挙によって自民党が政権与党に復帰し、我が国の進むべく舵取りに大きな期待が寄せられたことや、

制度を活用した融資対応に取り組み方針としており、その第一段として「但馬地区沖合底びき網漁業活性化委員会（漁船対策）」を設置いたしました。

最後になりますが、今後とも役員一同、水産系統組織の一員としての自覚を持ち、系統金融機関の機能発揮に取り組みんでいく所存でございます。

本年も、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申しあげまして新年のご挨拶とさせていただきます。

いわゆるアベノミクス政策等によって、一時は大幅な円安や株価の上昇がみられました。ただ、僅か1円の円安によって400億円も

の利益が生まれる企業もあれば、それこそリッター当り70銭の原油値上げに悲鳴をあげている零細漁業者にとっては、「円安ナニするものぞ」という印象しか残っておりません。かねてより懸案のTPP問題についても、とうとう政府は全国の農業者団体等の反対を押しきって参加表明を行いますが、米国側の要求はあくまでも関税の全面撤廃にあるようです。そのほか、春先には淡路を震源地とする、一瞬あの阪神淡路大震災を彷彿させる震度6弱の大きな地震が発生しましたが、多くの被災状況の中で、幸いにも死者・行方不明者が皆無であったことは何よりでした。夏の参議院選挙では、当初の予想通り自民党が圧勝し、ようやく衆参のねじれ状態が解消しましたが、反面、これからは良くも悪しくも何事も数の論理で決っていくことが若干懸念される場所があります。その手始めとして、1,000兆円という想像を絶する莫大な借金を抱えてやむを得ない状況とは

いえ、既に本年4月から消費税率が8%になることも与野党の大きな攻防もなく決定しています。

こうした中で、本県の水産業を顧みまずと、のり養殖漁業については、2月以降の極度の色落ちと当初の全国的な豊作見通し等が相場に大きく影響したことなどから、2年前の平成22年度漁期に匹敵する極めて低水準な生産結果となりました。また、イカナゴ漁についても、今までもなく極端な西高東低型で、海域によって好不漁の格差が非常に顕著でありましたし、その他の漁業についても依然として明るい兆しが見えにくい状況でした。更に、但馬の漁業についても、沿岸・沖合漁業ともに相変わらずの不漁と魚価安に加え、時化によるたび重なる操業停止を余儀なくされるなど、これまた非常に厳しい状況でした。

こうしたことから、漁業者の皆様にお支払いする共済金や積立ぶらすの払戻金は莫大な金額になっており、今や、漁業共済や漁業収入安定対策事業（共済掛金追加補助事業+新積立ぶらす）は、漁業者にとって必要不可欠なものになっているように思います。従いまして、私ども漁業共済組合としては、引き続き、これら制度内容の浸透と加入の普遍化に向けて鋭意取り組んでまいりる所存でありますので、どうか倍旧のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、初春にあたり、皆様のますますのご健勝とご多幸はもとより、国民の重要なタンパク源を供給する使命を持つ我々第一次産業に携わる者として、「魚が獲れない、獲れても安い、沖に出てても油代にもならない」という極めて深刻且つ情けない現実から、一刻も早く脱却できんことを祈りつつ、新年のご挨拶といたします。

新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長



近藤 敬三

新年あけましておめでとうございます。皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

さて、昨年は、急激な円安の進行による燃油高騰や、竹島や尖閣諸島をめぐる中国や韓国との緊張状態の継続など暗い話題が多かったものの、アベノミクス効果による企業業績の回復や、東京オリンピック招致決定、「和食」日本人の伝統的な食文化」の世界無形文化遺産登録決定など明るい話題も多く見られる1年でした。中でも、和食の無形文化遺産登録に発信する良い機会ですので、普及活動を更に活発化し、魚食がさらに普及されることを切に願っているとあります。

農林水産業は、単に食料の安定供給という役割のみならず、農山漁村の活性化や県土の保全等、多面的な機能を有する産業であり、私達の「いのち」と「くらし」を支える基盤です。とりわけ漁業は、海域の環境保全、漁村文化の継承、さらには海難救助や国境監視など多様な側面を持ち、皆様方は国民の生命と財産を守る極めて重要な役割を担っています。

山田会長をはじめ皆様の、豊かな海の再生に向けた取り組みをはじめ、漁業用燃油や資材の安定的な供給、魚食普及活動等、本県水産業の振興に向けたご努力に、心から感謝と敬意を表しますととも

に、県政の各般にわたり、ご理解・ご協力を賜ってまいりますことに、厚く御礼申し上げます。

県といたしましては、引き続き、資源管理型漁業や栽培漁業、漁場の整備などによる「つくり育てる漁業」を推進するとともに、魚食の普及や水産物のブランド化による水産物の消費拡大を図ってまいります。課題は多くございますが、皆様が安定した漁業経営のもとで、将来に



兵庫県水産技術センター
所長

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。各浜の皆様方におかれましては、気分も新たに清々しい新年をお迎えになられましたことを心よりお慶び申し上げます。

ものの本によりますと正月とは、年の初めに、その年の山海の産物が豊かになるよう、また、家族みんなが元気で暮らせること約束してくれる歳神様をお迎えし、お祝いをする行事で、門松やしめ飾り、鏡餅を飾るのは、すべて歳神様を心から歓迎するための準備だそうです。また、おせち料理は神様へのお供え物として作り、年があげると家族全員で神様からのおさがりを頂くと考えられてきました。語呂合わせの好きな日本人は、その中に「めでたい(鯛)」「よろこぶ(昆布)」、出世魚にあやかる「ぶり」、長寿を願う「伊勢エビ」、子孫繁栄を願う「かずのこ」など多くの水産物も取り入れています。

わたり誇りと希望をもって漁業を続け、安全安心な水産物を供給していただくために様々な施策を展開してまいりますので、皆様方におかれましては、本県水産業の更なる発展に、引き続きご尽力いただきますようお願い申し上げます。

新たな年の始まりとともに、本県水産業が益々発展し、未来に向かって力強く前進されますこと、新しい年も平穏で安全な操業が続く、豊かな海の幸に恵まれますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。

このような豊かな食文化を背景に和食が世界遺産に登録されることとなりましたが、近年の魚価の低迷や消費の減少を見とらせたままだ魚食普及や消費者ニーズに合った水産物の安定供給への不断の努力の必要性を感じています。



兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。皆様方には、清々しい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、4月の淡路島を震源とする地震や、度重なる台風の来襲による伊豆大島やフィリピンのレイテ島での大規模災害があり、水産業の基盤である漁港・漁村の安全・安心の確保について、その重要性をあらためて再認

水産技術センターでは、水産物の安定供給に向けて豊かな海づくりの推進のための科学的知見の提供に尽力するとともにアサリ・カキなどの二枚貝類の養殖技術、ノリ・ワカメなどの藻類の優良品種開発、ズワイガニ・ソデイカやシラス・イカナゴの漁況予測、主要魚種の資源評価や資源管理を進めるための試験研究への取り組みを続け、漁業者の方々が困ったときに気軽に来ていただける、また、次の生産につながる新しい技術を提供できる水産技術センターを目指して努力して参りますので、昨年引き続きご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりにりましたが、ひょうごの海が、漁業者の皆さんにひいては多くの消費者に豊かな恵みをもたらせてくれる一年でありますことを願うとともに新しい年が心豊かで希望に満ちた一年となりますことを祈念申し上げます。

識した一年となりました。兵庫県では、東日本大震災の教訓を踏まえ、昨年2月に「兵庫県津波防災インフラ5箇年計画」を策定し、防潮堤等の整備などの地震・津波対策を推進して画期的な更新にも、積極的に取り組んでまいります。

林 健児

また、豊かな海を取り戻すため、漁港周辺の静穏な海域や藻場を活用した「魚を育てる漁港」の調査も進めており、本年は、その成果も含めて整備手法の検討を進めていきます。

さらに、水産物の消費拡大に向けた新たな取り組みとして、漁港での水産物直売活動などを支援する「人が賑わう漁

「港」の整備に取り組みとともに、水産加工場の整備やノリ養殖設備の更新支援なども、引き続き進めていきます。

本年も、昨年に引き続き「ひょうご農林水産ビジョン2020」に掲げる①資源培養型水産業の推進、②豊かな里海づくり、③災害に強い農山漁村づくりを施



全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
岸 謙

年頭のご挨拶

新年あけましておめでとございます。年頭にあたり、全国の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますれば、昨年は新政権による経済再生最優先政策により復活に向かって滑りだしたものの、燃油高止まり、魚価安、減少する水産物消費量などの課題への対応が求められることに変わりありませんでした。

私が、昨年6月のJF全漁連会長就任以来、強い思いを持ち申しあげていることは、JFグループが自らが変革を恐れない勇気を持ち、そして本会が浜から信頼される実行力をもつ力強い組織であることが、今こそ求められていることとであり、日本の浜の将来を考えると、まず、我々が自ら決めた道を毅然として進んでいくことが重要であり、そのうえでそれをさらに進める仕組みづくりをJF全漁連が先頭に立ち全力で作ります。上げなければなりません。

そうした活動を十全にしていくなために、本会の経営が健全であることが前提であります。本会は、増資や事業の利用拡大などを基本とする7か年に亘る経営再建計画を2012年度より取り組んで

策目標に、力強い水産業づくりを目指して、漁港整備に取り組みでまいりますので、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いたします。

最後になりましたが、本年一年の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしまして、年頭のご挨拶といたします。

参りましたが、御蔭をもちまして、本年度を以って前倒し達成をできる見通しがたったところであります。

ここに改めて、本会への会員並びに関係の皆様のご協力・ご支援に対しまして御礼申し上げます。



全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
鎌田 光夫

新医療共済をバネに目標達成へ

あけましておめでとございます。皆様方には、日頃からJF共済事業にご理解とご尽力を賜り心より感謝申し上げます。年頭にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、甚大な被害をもたらした東日本大震災から、早3年が経過しようとしておりますが、復興にはなお道半ばにあり、共水連といたしましても、引き続き、被災地JFの業務機能の復旧を支援するとともに、この震災を風化させることのないよう、使命・役割をしっかりと果たしてまいりたいと存じます。

さて、JF共済を取り巻く環境は、「アベノミクス」により景気回復期待の高まりはあるものの、急激な円安による燃

者緊急要請集会をはじめとした取り組みにより、補正予算による省燃油活動推進事業の他、漁業用燃油緊急対策2事業の措置や農林漁業用A重油の特例措置及び地球温暖化対策税の特例措置の延長など、漁業経営維持の仕組みを作ることでできました。しかし一方で、大きく動き始めたTPP協定交渉をはじめとする課題など、依然として我々JFグループの進む道筋は険しく、我が国漁業は生き残りのための大きな分岐点にあることは変わりありません。

このような日本の漁業再興へのかじ取りを誤ることが許されない中、本会では、JFの原点に立ち返り、水産物消費拡大に向けた活動に力を注いでまいりたいと考えております。JFグループ関係者の

油高騰と長期にわたる魚価安、原発事故による風評被害、また、TPP交渉参加への懸念など、先行き不透明で相変わらず厳しい状況が続いています。

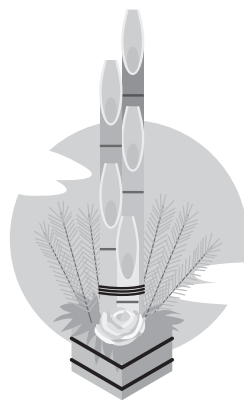
鎌田 光夫

こうした中、平成25度はJF共済3か年計画の最終年度として、引き続き、事業量目標の必達による保有契約量の維持・回復を基本方針とした事業展開をすすめ、各JFにおいても事業量目標の達成に向け精力的な共済推進活動に取り組みでいたしております。基幹種目の生命共済「チョコー」において、昨年10月に投入いたしました新医療共済・匠が好評を得、順調に推移しており、今後、実績の積み増しが大いに期待されることとなっております。

さらに、年度末に向けた強力な推進活動により、生活総合共済「くらし」を含め、最重要課題であります長期共済の目標達成に最大限の努力を図ってまいりたい、と考えております。

みなさまにおかれましても、これまで以上に英知と総力を結集していただき、本会の活動に対しての、引き続きのご協力・ご賛同を頂きたくお願い申し上げます。

最後となりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地で活躍の皆様のお操業の安全とご繁栄・ご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。



また、平成24年度を初年度とする3か年の増資計画をすすめているところでありますが、非常に厳しい事業環境の中、増資目標額の90%以上のお引受をいただき、さらには、各準備金の充実強化と併せ、新基準で600%を超えるソルベーション・マージン比率を確保することができました。会員各位には特段のご理解とご尽力をいただきましたことに、厚くお礼を申し上げます。

共水連といたしましては事業量目標の必達、さらには、東日本大震災への対応はもろろんではありますが、マネジメント改革の推進や、引き続き経営の健全性にむけた増資、漁業者ねんきんの改善措置の検討などの諸課題につきましても、お力添えをいただきながら、順次、強力にすすめてまいります。

皆様方には、倍旧のご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

洲本炬口漁業協同組合 発足 ～JF洲本・JF炬口が合併しました～

1月1日(水)、新しく「洲本炬口漁業協同組合」(JF洲本炬口)が発足しました。

JF洲本とJF炬口は、漁獲量の減少、組合員の高齢化等、組合経営を取り巻く環境が厳しくなる中、組合員の負託に応えるべく合併について話し合いを重ねてきました。昨年11月には合併仮契約の調印を行い、その後

の所定の手続きを経て、この度、合併の実現となりました。新しいJF洲本炬口は、組合員数68名(正組合員:45名 准組合員:23名)となり、事務所は旧JF炬口に置かれます。

なお、今回の合併に伴い県下の組合数は38となりました。

洲本炬口漁業協同組合：〒656-0011 洲本市炬口1-1-1 電話：079(922) 0367

※新JFの連絡先は旧JF炬口と同じです。

第38回 通常総会 開催される

JF兵庫漁連

画を下回り、事業総取扱高203億、事業利益6千7百万円(計画比4千2百万円減)、経常利益7千万円(計画比2千4百万円減)となり、事業報告など全議案原案通り承認されました。また、本県水産物の販路拡大につなげていくため、株式会社東海屋の全株式を取得し、100%子会社化する事が決まりました。

12月10日(火)、明石市内のホテルにおいて、JF兵庫漁連第38回通常総会が、兵庫県農林水産局 三浦恒夫局長、農林中央金庫大阪支店 中島隆男支店長をはじめ、JF組合長及び系統団体から多数の出席者を迎え開催されました。

開会にあたりJF兵庫漁連 山田 隆義会長は「円安により油が高騰するなか、皆さんが安心して操業が出来るよう、先日も燃油高騰対策等の要望をしてきた。また、瀬戸内海の「豊かな海」再生、TPP問題への取組み等、漁業者のために様々な取組みを今後も継続して行っていきたい」と挨拶があった後、来賓の三浦局長(井戸敏三兵庫県知事の祝辞代読)、中島支店長から祝辞がありました。またJF全漁連 岸 宏会長のメッセージが披露されました。

38期は、カキ養殖業や一部漁船漁業は順調に推移しましたが、ノリ養殖業の不振や出漁日数の減少により、経済



挨拶に立つ山田会長

TPP決議の実現を求める国民集会 開催 ～東京・日比谷野外音楽堂に約3,500人が集まる～



(一財)兵庫県水産振興基金

大詰めを向かえているTPP交渉において、米国などから我が国に対し重要5品目を含めた関税の撤廃を要求されるなか、12月3日(火)、東京・日比谷野外音楽堂において「TPP決議の実現を求める国民集会」が開催されました。TPPから「食と暮らし・いのち」を守り「国会決議の実現」を求める実行委員

(写真提供: JF全漁連)



「浜に大きな打撃」と重田理事
(写真提供: JF全漁連)

会(JAグループ・JF全漁連など9団体)が主催する同集会には、JF全漁連などの水産団体、JA全中などのJAグループ、生協などから約3,500人が集まったほか、衆参両院の100名を超える国会議員らが駆けつけました。

集会では、自民党及び衆参農林水産委員会が「米、牛肉などの農林水産物の重要品目を除外または再協議の対象とする」と決議していることを踏まえ、「聖域なき関税撤廃が前提ではない」は極めて重要な約束であり、これを実現するよう求めるとしたほか、漁業補助金について「持続的漁業の発展、震災復興のために堅持されなければならない」とした内容を盛り込んだ集会決議が採択されました。

た。また、農林漁業者からのリレーメッセージも行われ、JFグループからはJF全国漁業連重田利男理事が「漁業経営が危機的状況にあるなか、さらなる自由化が行われると多くの漁業者が廃業し、浜に大きな打撃を与える。国民に魚介類を供給できなくなるばかりか、国境監視、環境保全、海難救助などの機能は果たせず、国益が損なわれる」と意見表明を行いました。

集会後は農水省、外務省などを経て国会までデモ行進を行い「政府はTPP決議を履行しろ」、「日本の漁業を守ろう」とシュプレヒコールや請願を行うとともに、広く国民に理解を求めました。



永田町へ向かう水産関係者らのデモ行進
(写真提供: JF全漁連)

第1回 乾のり入札会を開催

JF兵庫漁連のり海藻事業本部

JF兵庫漁連（山田隆義会長）が開催する今漁期の乾のり入札会が12月から始まり、共販日にはJF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）に全国から多くの商社が集まり活気づいています。

今漁期の共販は臨時も含め15回の開催を予定しています。第1回共販に先立ち、12月9日（月）には臨時共販を開催し、西播



地区から約470万枚が上場され26社（約50名）が訪れました。17日（火）の第1回共販には、西播地区をはじめ摂津・東播地区、淡路地区の一部から約880万枚が上場され、46社、約90人の来場がありました。本張り作業

が強風のために遅れたこと、生産時期にはノリの伸びが悪かったうえに、刈り取り時の強風による影響で、上場枚数は予想を下回る共販となりました。出品物は、西播地区で早い時期から色の浅いノリが一部で見られましたが、栄養塩は回復傾向にあり、ノリの成長も勢い付く時期でもあることから、今後は期待が高まります。



今年から衛生帽の着用が義務付けられました



献上のり審査会の様子

り」とされたほか、今後は良いノリづくりにノリ市場の活性に共に努力したいと呼び掛けられました。

続いて、兵庫海苔入札指定商組合 松谷晃理事長（松谷海苔株式会社）は「今年共販が2回増えたが、良いノリを良いタイミングで届けたいという思いからであり、少しでも高く買うという生産・販売が一体となった取り組みとしていきたい」と挨拶され、本県のノリ養殖の順調で高品質な生産に期待を寄せられました。

また、この日、JF兵庫漁連が毎年行っている天皇陛下への「献上のり」の審査会も同センターにて行われました。山田会長、JF一宮町社領 弘組合長ら6名が、色・艶・味について審査した結果、JF林崎生産の等級「新優」が選ばれました。

（臨時・第1回乾のり入札会：結果）

	臨時共販	第1回共販
共販枚数	472万枚	879万枚
共販金額	3,632万円	8,189万円
平均単価	7円61銭	9円23銭
最高値	13円89銭（姫路市網干・新特上）	35円09銭（林崎・新優）

虹の仲間で森づくり

12月7日(土)に

グリーンピア三木で開催!

JF兵庫漁連 指導部

今年で7回目を迎える「虹の仲間で森づくり」は、漁業者と消費者が共に手を携えて、豊かな海を支える森を育てていくことを目的に、コープこうべとJF兵庫漁連が共同で取り組んでいます。今年も12月7日(土)に行われ、JFグループ関係者、コープこうべの会員や行政関係者など約200名が県内各地から集まり、森林の除伐活動に汗を流しました。



大きな木も除伐しました!

会場となった「グリーンピア三木」では、はじめに、森と海のつながりについて学んだあと、しっかりと準備運動。19班に分かれたヘルメット姿の参加者は、NPO法人「ひょうご森の倶楽部」の指導員の皆さんに誘導され、次々に森に入りましました。過去に1度除伐を行った場所でしたが、森には大きく伸びたシダ類や、常緑樹がたくさんあり、参加者は次々と木を除去し、大きな木を切り倒す際には声を掛け合って作業を進めました。その甲斐あって、森の



森に日が差ししてきました!

中にたくさんさんの日光が差し込む光景を見ることが出来、作業の手を休めて見入っている人の姿も見られました。

このあと、県内各地の水産物を使用したバーベキュー、海鮮味噌汁、タコ飯等が振る舞われ、各テーブルでは参加者同士で歓談がすすみ、楽しい昼食交歓会を過ごしました。

森の中で、木を切る、という作業ですが、たいへん面白い、という感想が多く、何度も繰り返し参加頂いている方が多い活動です。皆様も是非参加してみてください。



みなさん、お疲れさまでした!!

農林水産省近畿農政局神戸地域センターによる モニター交流会で意見交換

(一財)兵庫県水産振興基金

農林水産省では、生産者、流通加工業者および消費者と行政担当者の情報交流が可能となるよう人的ネットワークを構築し、情報交流活動を行っています。11月29日(金)には、同省近畿農政局神戸地域センター主催による「平成25年度 農林水産情報交流ネットワーク事業 モニター交流会」が水産会館で行われ、訪れた10名のモニターとJF関係者が水産業をテーマに活発な意見交換を行いました。

まず、同農政局神戸地域センター長 土屋憲一氏から「和食がユネスコの世界無形文化財に登録される。今日は魚を調理しながら、



現在の水産業を伝える良い機会となりました

改めて日本食の良さを見直していただきたい」と挨拶され、JF兵庫漁連 突々 淳参事は「漁業者側からきっちりとした情報発信を行うため、この会館で料理教室等を行っている。様々な体験を通して漁業のことを知ってもらいたい」とされました。

交流会は、料理教室体験、講演、意見交換の3部構成で行われました。まず、JF兵庫漁連シートクラブが普段実施している料理教室を参加者が体験し、アジの捌き、調理を行いました。昼食後には「漁業が果たす役割〜漁師は海の防人〜」と題した講演があり、講師のJF明石浦 戎本 裕明組合長は、明石市をはじめ日本の水産業の現状を説明した



質問に答える戎本組合長

後、また「きれいな海は豊かな海か?」と題し瀬戸内海の海況の現状や漁業者の取り組みを話したうえで、漁業者が担っている役割としての「3つの防人」(食糧安保、国境監視、環境保全)を紹介されました。意見交換では、モニターから「水産物をはじめとして海と繋がりを持てたら良い」、「海の栄養塩不足は全国的なものか」などの感想や質問のほか、「魚の名前は知っているが、泳いでいる姿や食べ方を知らないことが多いので、食育の現場にも取り入れていくべき」、「一次産業として農業と漁業が一体となった取り組みが必要」との発言があり、戎本組合長らと意見を交わしました。

平成25年度 「ひょうご海の子作品展」 作文部門 受賞者決定!!

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連は、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守ることの大切さと漁業に親しむ心を育んでもらうため、「ひょうご海の子作品」(絵画・作文)を県下の小中学生を対象に募集したところ、絵画部門3,504点、作文部門117点の応募がありました。

昨年10月29日に絵画部門、12月9日には作文部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定しましたので、一部をご紹介します。
(絵画部門は16ページに掲載しています)

【作文部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	洲本市立由良小学校	6	國野 聖	海に生きる
兵庫県教育長賞	姫路市立神南中学校	3	松田 祐人	日本の海について
JF兵庫漁連会長賞	洲本市立由良小学校	6	中山 亜依	由良のおいしい魚
	南あわじ市立辰美小学校	3	三宅 宗良	お父さんの仕事の手伝い
JF兵庫女性連会長賞	南あわじ市立灘小学校	5	木下柚都葉	わたしの大切な海
	加古川市立野口北小学校	6	竹内 未帆	海の子
JF兵庫信漁連会長賞	姫路市立上菅小学校	1	今井 尋夢	さかなみたいにおよぎたい
	淡路市江井小学校	5	二宮 彩菜	お父さんの仕事
農林中央金庫大阪支店長賞	加古川市立野口北小学校	1	古来 彩	あったらいいな、こんなさかな
	福崎町立福崎西中学校	3	平岡 靖浩	海と海の生き物と共に生きる

※紙面の都合上、上位入選のみ掲載。

○JF兵庫漁連HPで、兵庫県知事賞と兵庫県教育長賞の作文を掲載中!

○2月下旬頃に、全受賞作品(30作品)を掲載した“ひょうご海の子作文集”を発刊予定です。

<兵庫県知事賞>

海に生きる

洲本市立由良小学校 6年 國野 聖

ほとくの祖父は、漁師です。朝早くから漁に出て、昼前に戻ってきます。その後、販売所で釣ってきた魚を売ります。仲間の人達で、

「今日何匹釣ったん。」

「せいろ(魚を入れる発泡スチロールで四すみに穴があいている箱)5枚じゃあ。」

といった話をします。

それから、魚をせいろに入れて、大きな台車に乗せて、せいろをする場所に並びます。午前十一時に目覚まし時計のようなベルが鳴り、並んでいた人達が、魚を木の台に乗せると、すでに来ている仲買の人達が、せいろごとに木の札に値段を書いて、せいろが始まります。一番値段の高い札をつけた仲買人に伝票(仲買人と漁師の名前、魚の種類、金額が書いてある青い紙)とせいろが渡され売買が成立します。ほとくも時々手伝います。

「聖、伝票もろてって。」と言われて、「伝票ちょうだい。」と係りの人にもらいます。

それと船から台車に乗せる作業もします。

販売所には、鳥が魚に群がります。青さぎ、海つ、とびなどです。魚を持つている時は、気をつけないと襲われて、大けがをすることもあります。おもしろい事もあります。販売所となりに由良中学校があります。鳥が盗った魚を中学校に落とし、校庭や窓の下などに魚が散らばっています。何コレ珍百景、に応募できそうな光景です。

漁は、朝4時ごろ港を出発し、ポイントに2時間位でつきます。着いたら、エンジンを持ちます。そしてしかけを海に投げ入れたら30分待ちます。(海底におもりを置いて針がひっかからないようにするため)それから、しかけを引き上げます。釣れた魚は、氷がいっぱいに入った水そうに入れます。それを3〜4回くり返します。

しかけ作りは、家です。祖父の場合、魚の種類によって漁法がちがいます。

一本釣り(さわら)、はえなわ(あじ)、つぼ釣り(タコ)などです。その時ほくも手伝います。糸にビーズを通したり、なまりをつぶしたりします。ほとくが手伝つと祖父はとても喜びます。

海の仕事は、天候が一番大事です。海は、いつもおだやかではありません。漁に行くのは、夜のうちに決めます。風が強い時でも祖父は、わざと、「いなか。」と言わないで、

「沈没するからやめなさい。」と家族全員で止めます。

漁師の仕事は、大変だけど、色々な魚を見られたり、新鮮な魚をおいしく食べられたりするので楽しいです。大人になったらほとくも祖父のような立派な漁師になって大好きな海と共に生きていきたいです。

大角会長が学生と意見交換 〜大阪市内の専門学校で〜

(一財)兵庫県水産振興基金

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(摂播漁青連)の大角 生馬会長(JF坊塾)が大阪市にある大阪動物海洋専門学校の水生生物学科の学生を相手に、漁業の現状や摂播漁青連の活動について意見を交わしました。

これは、同校講師を務める秋武 宏氏(JF兵庫信漁連前会長)が、当基金大輪田塾のアドバイザーであることから、同塾修了生(5期生)の大角会長と話が持たれ、12月11日(水)に実現したものです。

はじめに、秋武氏より大角会長が所属するJF坊塾や、摂播漁青連のガザミふやそう会の活動などについて説明があり



学生の中には漁業関係に就職する人もいました



「漁師の仕事はキツイけど、わるいものでない」と大角会長

ました。続く意見交換では学生から「漁業者の高齢化対策以外に何が必要か」、「大輪田塾で漁業以外の知識を広げるのはなぜか」といった質問に対し、大角会長は燃油高騰対策・魚価向上対策の重要性を訴えるとともに、大輪田塾は「視野を広げることが出来る学びの場」と説明し、「お金が儲かれば漁師は増える。獲るだけの漁師の時代は終わった。今後はいかに売っていくかが課題」と持論を展開されました。

その後、学生にJF兵庫漁連の「イカナゴのくぎ煮」、「カキのやわらか煮」、「焼きのり」などの商品を試食してもらい、「初めて味のするノリを食べた」など好評を得ました。

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着よう!

合羽タイプのライフジャケットは防寒着としても使え、冬でもポッカポカ!

ライフジャケット着用時の生存率は非着用時の3倍となります。

固定式合羽一体型ライフジャケット

モデル:一般財団法人
兵庫県水産振興基金
西詰 宗弘
(拓水編集部)



〜安全をサポート〜
浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



十分な浮力!



神戸海上保安部 海上保安官による実演

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

TPP交渉妥結許さぬ ～国会決議厳守を～

J Aグループ兵庫の役職員18人は昨年12月3日（火）、日比谷野外音楽堂（東京都千代田区）で開催された「TPP決議の実現を求める国民集会」に参加しました。J Aグループ等の9団体でつくる実行委員会が主催し、農林漁業者や消費者ら3,500人が参加しました。

年内妥結を目指す米国は日本に対し、重要品目を含めた自由化を迫る強硬姿勢を鮮明にしています。7日（土）からシンガポールで開かれたTPP閣僚会合を前に、コメなどの重要品目を関税撤廃の対象から除外することなどを求めた国会や自民党の決議を厳守するよう求める決議を採択しました。厳守できない場合は交渉から脱退することなどを求める声が相次ぎました。

集会後、国会周辺をデモ行進し、強い危機感のアピールと国民への十分な情報提供などについて訴えました。



▲「TPP 決議の実現を求める国民集会」の様子

▶デモ行進をするJAグループ兵庫の役職員等



保健・医療・福祉研究会 施設見学研修を開催 ～ふつうの暮らしを、いつまでも～ 「10の基本ケア」を大切に

11月19日（火）、兵庫県生協連「保健・医療・福祉研究会」の施設見学研修として、社会福祉法人 協同福祉会 特別養護老人ホーム「あすなら苑」（奈良県大和郡山市）を訪問。「保健・医療・福祉研究会」メンバー、会員生協、事務局合わせて13名が参加しました。

今回の見学研修では協同福祉会 理事長 村城 正氏より「あすなら苑」の「10の基本ケア」（①換気をする②床に足をつけて座る③トイレに座る④温かい食事をする⑤家庭浴に入る⑥座って会話をする⑦町内におでかけをする⑧夢になれることをする⑨ケア会議をする⑩ターミナルケアをする）に基づいたサポートを実践されているお話をうかがいました。

ケアする側にとって都合のいい介護ではなく、すべての生活動作の基本である「座位を保つ」ことを大切に、車イスから食卓への座り替えやエプロンを使わない食事、機械浴ではない普通のお風呂に入ること、また紙おむつを使用せずトイレに座ることで筋力を保つことなど、普通の暮らしを全うすることを大切にされているきめ細やかなサポート体制にメンバーは感銘を受けました。参加者からは、「地域包括ケアの“奈良県モデルを作る”という情熱に感動しました」「介護の目的・本質は何かについて、毎日の介護実践のなかにおける一つひとつの意味についての理解が深まりました」などの意見が寄せられました。



◀村城理事長より「10の基本ケア」について伺う



テレビ電話で在宅の利用者の安否を確認



旬に想う

写真と文
遊方子

紫式部と嫁が君

◆歳時記の一月に《嫁が君》という季語がある。辞典には「ネズミの異称、特に正月三ガ日の忌み詞」と説明されている。正月三ガ日、岩手で鼠に「嫁御の餅を供する習わしや、岡山では「鼠の餅」を供える。鼠を「上の姉様」とか「福の神」と呼ぶ地方も多く、鼠を歳神様（としがみさま）や歳徳神（さいとくじん）として、幸せを呼び込む農耕の神の使いと見立てたらしい。縁起をかつぎ、ネズミとせず忌み詞で《嫁が君》とした。梨をアリノミ、するめをアタリメ、お茶をアガリバナと言ひ換える。総じて忌み言葉には遊び心があつて愉快である。

◆全国の「忌み言葉」を集めた資料を見る機会があった。古くからの具体例が丹念に収録され、分厚い冊子で膨大な量だった。その起源は、種々雑多で不詳事項も多いが、ある種の信仰から出た「忌み言葉」も数多くある。アイヌや蒙古人の妻は、決して夫の名を口にできなかったそうで、それは神聖なものを汚したくない畏れと、邪悪なものに汚されまいとする怖れから、他人に教えない一種の掟のようなものであつたらしい。ペンネームが生まれたのも、底辺には同じ考えが働いているという説がある。匿名にしない代わりには別名を拵え、活動する場合のみ使う。「源氏物語」の著者《紫式部》の本名が不明なもの、これが忌み言葉だと考えると納得できる気がするが、如何なるものであろうか。

◆この才女の名を拝借したのが、クマツヅラ科のムラサキシキブである。北海道南部から九州・台湾・中国まで分布の低木、六月頃に咲く小花には派手さは無いが、中秋の頃に碧紫色の実がつくと、俄然、花材として注目される。「源氏物語」に草木は頻繁に出て来るがムラサキシキブは無い。語源を探ると何のことはない《ムラサキシキミ》の転化だとなり、才女と無関係が判り大いに失望した。真っ直ぐ伸びる幹が道具の柄や杖になり地方名は頗る多いのだが…。

◆「忌み言葉」資料に、青森・秋田の《マタギ》と呼ぶ狩人に取材した山言葉がある。深山の言霊（ことだま）信仰から生まれた《山言葉》は、狩猟に関する事柄を特殊言語に置き換えている。山の神信仰と深く関る《熊》を青森でイタズ、北海道でオヤジと呼ぶ。九百余りの山言葉は、土地土地で変異が多く実に興味深いものだった。《山言葉》は漁師に伝わる船霊様信仰から生まれ、山言葉に比べると数少ないが、船霊様の機嫌を損なわぬよう気遣う言葉は、根本に海上労働が常に危険と背中合わせという考えがある。近年の造船・航海・漁法の技術進歩によつて、昔風な山言葉は影を潜め減亡寸前にあるともいふ。

大輪田塾だより

資源管理型漁業と栄養塩循環について

12月10日（火）に行われた講座は「資源管理型漁業について」と「漁業生産と栄養塩循環について」の2課題でした。

「資源管理型漁業について」は大野泰史主査が講義を行いました。資源管理型漁業の方法、考え方などについて説明された後、「今の漁場環境にあった資源管理が必要であり、魚が増えるということを強く認識していない」と資源管理は出来ない。とされました。

続く「漁業生産と栄養塩循環について」では県水産技術センター 反田 實技術参与が講義を行いました。漁獲量減少と栄養塩量の関係や、「豊かな瀬戸内海」を目指す取り組みに、瀬戸内海側の各地が同調していることなどを説明され、今後は栄養塩管理が豊かな海の実現に不可欠であることを強調されました。なお、「資源管理型漁業について」の講義では、県外（三重県）から初めて視察がありました。



反田参与からは漁獲と栄養塩の関係を学びました



他県の視察があつた大野主査の講義風景

平成25年度 「ひょうご海の子作品展」 絵画部門 受賞者決定!!

12ページに掲載しています「ひょうご海の子作品展」絵画部門で、入選した絵画の中から、兵庫県知事賞と兵庫県教育長賞の2点をご紹介します。

【絵画部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	播磨町立蓮池小学校	6	佐伯 優衣	明石漁港の夏
兵庫県教育長賞	姫路市立香呂小学校	5	大谷 駿介	わーい!海の中で住めるようになったよ
JF兵庫漁連会長賞	姫路市立別所小学校	3	筒井 陽大	虹色の海で泳ぐ魚を守るため、 ぼくがおそうじいたします
	伊丹市立荒牧中学校	3	北川 万結	大漁旗
JF兵庫女性連会長賞	姫路市立勝原小学校	6	大森 そら	養殖漁業
	明石市立魚住小学校	3	大上 七海	はたらくりょうしさん
JF兵庫信漁連会長賞	南あわじ市立榎列小学校	2	天野 更咲	はじめての魚つり
	淡路市立津名中学校	3	深山ひかり	漁港
農林中央金庫大阪支店長賞	神戸市立六甲アイランド小学校	6	梅岡レオン	無題
	川西市立清和台中学校	1	新里 公平	海の強者たち

※紙面の都合上、上位入選のみ掲載。

○平成26年1月7日～平成26年3月末日(土日祝日を除く)まで、兵庫県水産会館1階で受賞作品の展示会を開催中!近くへお越しの際は一度見学してみてください!

○JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載中!(<http://www.seat-sakana.net/>)



<兵庫県知事賞>

播磨町立蓮池小学校 6年 佐伯 優衣さん



<兵庫県教育長賞>

姫路市立香呂小学校 5年 大谷 駿介さん